

【ねがいはましては】

平成24年10月25日

KYOWA SCHOOL

第264号

「出会い」

華道家・前野博紀(まえのひろき)さん、ある日のラジオから流れてきたひと言「ホームレスの方に励まされました。」

この方、華道家としては知らぬ人のいないくらいに活躍なさっている方だそうで、テレビCMのデザインや有名ホテルのクリスマス装飾、あのタモリさんの笑っていいともにご出演なさったり、なのだそうです。私にとってはこの日がデビュー。

大学卒業後、サラリーマンとして何不自由のない生活を送られていたそうです。月収70~80万円、普通ならまあまあエリート人生、このまま平々凡々と楽しみましょう、と言ってもよいはず……。しかし、お父さまが59歳のとき突然他界されます。お母さまが「あと半年で年金がいただけるわね。」と言っていた矢先の出来事に、人の生き様って何なのだろうと深く考えさせられたそうです。そしてそれなりの服装で夜の街を浪々としていたとき、お年を召されたひとりのホームレスの方に励まされたのだそうです。

「こんな若いのに、もったいない生き方をされないように……。」でしたか?この部分がはっきりと出てきませんが……。(ごめんなさい)

いずれにせよ、このひと言で前野さんは生き方を大きく変えることになったそうです。年金を楽しみにこつこつ働いてこられた父の突然の死、人生何が起こるか分からない、私はこのままでよいのだろうか。自分が自分に満足のいく生き方をしたい。その念がホームレスの方のひと言で一気に開花したそうです。そして現在に至っているとのこと。

私が感動を覚えたのが、ホームレスの方……一般的にホームレスと聞くと、『人生脱落組』といった感が強く感じられると思うのです。しかしそこはちょっと待った!

以外にも人を元気づける『人助け』を堂々とやってのける方もいらっしゃる。冷静に時の流れを見続けながら『生きるとは』を日々思う方々。そんな中、一人の若者を勇気づける『言』をさらっと出してしまう。明日の暮らしもおぼつかない日々の連続でありながら、平気で人を心配することのできる『こころ』。人間捨てたものではないぞ、と、感動しました。

人がひとを想う、この連鎖が最も欠けている現場があるように思います。学校社会です。中学生たちから聞かれる学校での人情味のない現実が私のこころを暗くします。例えば地元の中学校の生徒会が、定期テストの一週間前より部活活動の停止を申し出たそうです。しかし、その要求は通らなかったそうです。寂しいのは、その結果に至った経緯が学校側から何の説明もなかったということです。少なくとも人と人が密接にかかわる社会、人がひとらしく成長するための真剣な現場において、子どもたちが真剣な態度で出した要求について、ゴミ箱に「ポン」と捨ててしまったような気にさせられてしまう内容は、どの方向から見てもむなしさを感じます。

中学生たちの多くは、定期テストへ向けて自分なりの歩みをしたいとねがっています。ある子は自分で自分のための問題をつぶさに入念に作成していました。そしてその作品をおくびもなく他の子たちにコピーして渡していました。すばらしい取り組みです。勉強を楽しむ姿を感じました。

またある子たちは、学校帰りに直接ここへやってきます。机に向かう真剣な姿、自分の姿に自分なりに満足が行っている様子。結果ではなく、今、真剣に生き切っている自分が嬉しくてならない……。「そうか、生きるってこういうことなのか、もっともっと、このような時間がほしいな……。」そんな表情が私にしあわせを与えてくれます。

「ダメでいいから、とにかく生き生きとしてみたい。」そんなところがひしひしと伝わってきます。

成績・結果をどうしても先頭に置きがちな現状の教育制度のあり方を、根本から考えさせられる光景がここにはあります。どうか教育関係者の方々、この国の教育を担っている政治家の方々、このままの学校では益々子どもたちはネガティブな方向へと流されていってしまいます。子どもたちが、「ダメでいいから自分なりの生き方をしてみたい」と、切に願っていることをお知りいただきたいのです。

きょうも夕方の小学生のクラスから来てもいいですかという中学生がいます。小学生時代、あれだけ傷つけられた心からの脱出にチャレンジしているようです。前向きに生きることって、こんなにさわやかなことだったんだ。前向きに生きることって、こんなにしあわせな気持ちになれるんだ。それに気づくことができたことこそが、あなた方のこれからの人生にとって最高の宝物なのだよね!

ある中学生は受験生でありながら新入生である小学1年生の指導を買って出てくれました。毎回楽しそうにやり取りしています。「生きてるなー」って実感できる瞬間がきっとあるのですね。

何をさておいても、私からこぼれる言葉はただひとつ……ありがとう……これだけです。あなた方が精一杯に生きようとする姿がこれからのこの社会をもっともっと明るいものにしていくと信じています。

街でフッと出会った方から出たひと言のように、私もあなた方に生きようとする力を少しでもお届けできたらと思っています。

ありがとね!